

JAきたみらい

# おひさま サタタ

2011



vol.99

4

## はいっポーズ!

《置戸地区・安住》

篠原亜実さんと日彩ちゃん

(紹介は2ページです)

特集

- 特別企画 **がんばれ!きたみらい農業**  
～市場編～
- 事事故例から学ぶ  
**農作業安心・安全講座**



# 季節の薫り



## 春到来

温かい日差しに誘われ、春の訪れを感じに車を走らせた。可憐に咲く福寿草、蕾を広げているふきのとう、チューリップの芽も見つけることができた。いずれも、じっと眺めていると心を和ませてくれる。

一方、雪解けも順調に進む畑では、黒い土や緑色の秋まき小麦が姿を表している。

雪腐病にも侵されず、元気に育ち、数センチほどに伸びた緑の葉が生き生きしている。

長年、作付けされてきた「ホクシン」から「きたほなみ」にバトンを譲った。

2～3割程度の増収と収穫時の長雨による穂発芽のリスクも大幅に軽減できる期待の品種だ。今後は、生育とともに施肥管理などきめ細かな作業を続けることによって、4ヵ月後の7月に、実をいっぱいにつけた刈り取りを、今から心待ちしている。

【写真は、気温が14℃位まで上がった4月1日に、小麦畑は上常呂地区・広郷、福寿草とふきのとうは置戸地区・豊住、チューリップの芽は北見市内で、それぞれ撮影したものです。】

## 表紙紹介

### 家族のひまわり

ほっちゃんりした顔に可愛い瞳で、ジツと見つめられましたが、お母さんにお話しを伺っていると、人見知りせず、私の膝にお座りし、ノートに走らすペンを追っていました。好き嫌いも無く、体重も8.4kgと元気に育っている日彩ちゃん。テレビに「いないいないばあ」が入ると、手を叩いて画面の子どもたちと一緒に遊んでいます。

お父さんとお母さんは「優しい心を持ち、人に接することが出来る子に育ってほしい」と、日彩ちゃんを見つめながら話してくれました。

お父さんの正博さんは勝山小学校の卒業生。お母さんの亜実さんは、正博さんと結婚するまでは勝山小学校に先生として勤めていました。平成20年に同校の100周年の記念式典が行われました。この式典を機に交際が始まり、翌年、数多くの方々に祝福されて結婚。

昨年の5月に日彩ちゃんが誕生。取材当日、茶の間に案内されると日彩ちゃんは、テーブルに手を添えて立っていました。



#### 【ご家族紹介】

左から～おばあちゃんの知恵子さん(53)、ひいおばあちゃんの富子さん(81)、おかあさんの亜実さん(26)と日彩ちゃん(10ヶ月)、お父さんの正博さん(28)、ひいおじいちゃんの清光さん(84)、おじいちゃんの正美さん(53)

権原さんでは、肉用牛約530頭と秋小麦、てん菜、スイートコーンなどを作付けする複合経営を行っています。





## もくじ CONTENTS

	<b>特集①</b>	4
	特別企画	
	がんばれ!きたみらい農業 市場編	
	「顔」の見える販売と「安全・安心」の推進	
	<b>特集②</b>	6
	事故事例から学ぶ	
	農作業安心・安全講座	
	○季節の薫り……………	2
	○表紙紹介……………	2
	「家族のひまわり」	
	○JAきたみらい	
	ホットライン東西南北……………	8
	○ほのぼのの広場……………	12
	・きたみらいのホープさん	
	・思い出の写真	
	・マイティスト	
	「歌謡」	
	・私のパートナー	
	・わが家のアイドル	
	・大きくなったら	
	・おらがまちのおしどり夫婦	
	・まちがいさがし	
	・読者の声	
	○JAからのお知らせ……………	16
	○おひさまサラダクッキング……………	24
	「カレーピラフ」	
	「キャベツのトマトスープ」	



# 「顔」の見える販売と「安全・安心」の推進

市場編

中部北陸地方で市場関係会社が多くある中、当JA産の玉葱と馬鈴薯の取扱量が一番の名古屋青果株式会社。第2回目の「がんばれ！きたみらい農業」は、同社の浅見真二部長代理にお話を伺いました。



（株）名古屋青果

営業第1部  
部長代理

浅見真二氏

## プロフィール

昭和33年3月、愛知県出身。短期大学卒業後、名古屋青果株式会社に入社。中部ホクレン青果会の「馬鈴しょ・玉ねぎ部会」の部会長を務め現在に至る。趣味はゴルフと芋・玉の販売。愛知県名古屋市天白区在住。

いろいろな産地を訪れている中で、北海道の印象と好きな農村風景は

## 親しみやすい 北海道々民

広大な土地と空気がとても「おいしい」ところです。それから、人々それぞれが、とても親しみやすく溶け込みやすいところ。好きな農村風景は、玉葱の収穫が終わわり、圃場に玉葱がいつぱいに詰められたスチールコンテナが整然と並んでいるのを見ると、何か感動と気持ちが高ぶる光景ですね。

当JA管内は「農業の縮図」と言われるほど、多種多様な作物が生産されていますが、この地域の農業の印象をお聞かせ下さい

## 他野菜の 出荷も視野に

「JAきたみらい」は「馬鈴薯・玉葱」の印象が強烈なインパクトとしてあります。馬鈴薯（生食）1700と1800、玉葱4338の面積があり、全国の他産地と比較にならないほど差が開いています。名古屋の私どもの市場では、馬鈴薯や玉葱の他に人参（相内）、ゴボウ（訓子府）、赤玉葱（訓子府・端野）、ペコロス（端野）が販売されています。もっともっと、「きたみらい」の野菜がいろいろなファンに届くことを願っています。





▲白い花が咲き乱れる「とうや」の畑

当JJAの販売高で大きなウェイトを占める玉葱・馬鈴薯の両作物、特に馬鈴薯については、貴社が一番多い出荷量となっています。市場側としての感想、あるいは他産地との品質格差などを含めてお聞かせ下さい

## 商談と

### 受注を重視

大変に有難いことだと感謝しています。当社は特に、馬鈴薯・玉葱については、末端である量販店や一般スーパーとの商談や受注の結びつきを進めることを重視していますので、どうしても「きたみらい産」が必要になるのです。もしも不足時には、他市場から買っても手当します。

それだけ重要であり、産地と売るお店、あるいは一般消費者に対して

「顔」の見える販売と安心・安全の推進を進めています。

品質については、広範囲にわたる作付けの中で、①土目の区分②形状③品位と、検査体制が築かれていますが、年産によっては、形状が変形している時が見受けられます。

数多くの仲買人がおられる中で、当産地の馬鈴薯については、どのような印象をお持ちですか

## 重要産地と認識

銘柄として仲卸しのなかでも通っているの、通常の取引がされています。その様な中、数量・品質と安定した入荷となっていますので、無くてはならない産地として認識しています。

中には「きたみらい産」オンリーでの取引をしている大ファン仲卸しもあります。

産地として、消費者皆さんに積極的に取り組むことはどんなことでしょうか

## 産地アピールを

### 積極的に

いろいろな量販店は、馬鈴薯の表示を「北海道産」として販売しています。そうした中、一般消費者に対して「きたみらい産」を知っていただくことを前提に販売していくこと

だと思えます。

当社も量販店に対して、「きたみらい産」を全面に販売していただく方向に動いています。

生産者の皆さんには、名古屋に来た際、店頭に立つてアピール販売を是非取り組んでほしいと思います。

馬鈴薯生産者及び当JJAへの要望などをお聞かせ下さい

## 安定出荷を

当社は、貴JJAの馬鈴薯・玉葱を販売するに当たり、市場内においても、その先の「売り場」の確保においても精一杯動いていますので、その手助けをしていただけたら最高だと思えます。

当社は、数量・品質とも安定した出荷を切に願うものです。

雪解けとともに種付け作業が始まる農家の皆さんに、激励のメッセージをお願いします

## きたみらいに

### 不作なし

昨年の異常気象により、生産者皆さんは収量面、品質面において大変ご苦労されたと思います。

今年は、どの様な天候になるのか分かりませんが、「きたみらい」には不作無しとの名言のもとに頑張っ

## (株)名古屋青果の概要

昭和22年10月7日設立。代表取締役社長・吉田真太郎

### 事業内容

- ①野菜、果実及びその加工品の委託販売並びに売買
  - ②青果物及びその加工品の輸入、販売
  - ③青果物を主原料とする食料品の加工販売
  - ④上記に付帯する一切の業務
- ・従業員 172名(グループ総従業員数501名)
  - ・資本金 4,950万円
  - ・年商 372億2924万円(平成21年度実績)
  - ・住所 愛知県名古屋市熱田区川並町2-22
- TEL 052-681-8820



▲きたみらい産「男爵」の入荷確認を行う浅見部長代理

一生懸命に行ったことに対してのお返しは、十二分にしたいと思っていますので、宜しくお願いします。

LOVE  
KITAMIRAI!



油断大敵

# 事故事例から学ぶ

# 農作業 安心・安全講座



農繁期に入ると農業機械を利用する頻度が高くなってきます。作業効率や利便性が高い農業機械は、現代農業に欠かせないものといえます。

半面、使い方を一歩誤ると重大な事故にもつながる危険性ははらんでいます。実際の事故事例を学んで、安全確保に努めましょう。



監修

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

生物系特定産業技術研究支援センター (生研センター)

特別研究チーム長(安全)中村 利男

## 農作業事故の実態

農作業死亡事故件数は、農業従事者の高齢化が急速に進む中で、毎年約400件前後と横ばいで推移しています。死亡事故のうち、農業機械作業に関わる事故が最も多く、全体の7割を占めています。また、65歳以上の高齢者の占める割合は7〜8割に達しています。

農業機械別の死亡事故件数では、乗用型トラクターが最も多く、歩行型トラクター、農用運搬車の3種類で、全体の約7割を占めています。

事故原因では、乗用型トラクターでは「機械の転落・転倒」、農用運搬車では「機械の転落・転倒」、歩行型トラクターでは「挟まれ」「回転部への巻き込まれ」の比率が高くなっています。

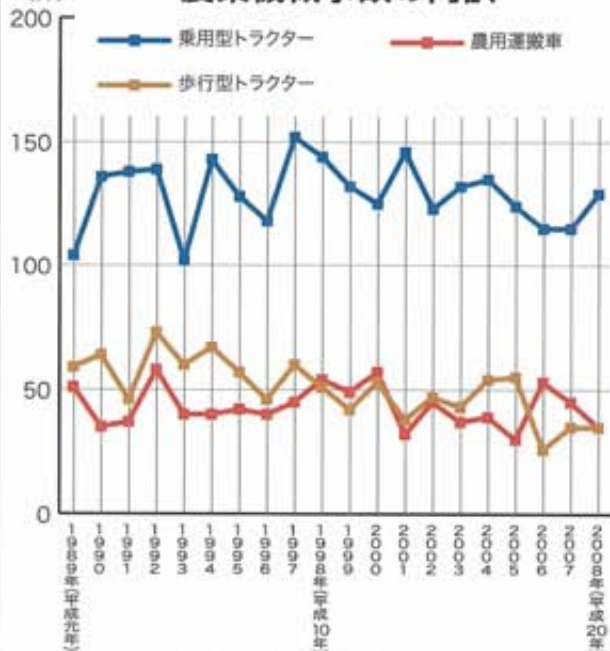
農作業事故は、死傷した本人、家族に大きな苦しみや悲しみをもたらすばかりでなく、農業の貴重な担い手が失われ、農業経営の継続の危機にもつながりかねません。このため、農業者、行政、関係機関・団体、研究機関などが相互に連携・協力して、事故防止に向けた対策を講じることが重要です。

## 事故事例と防止のポイント

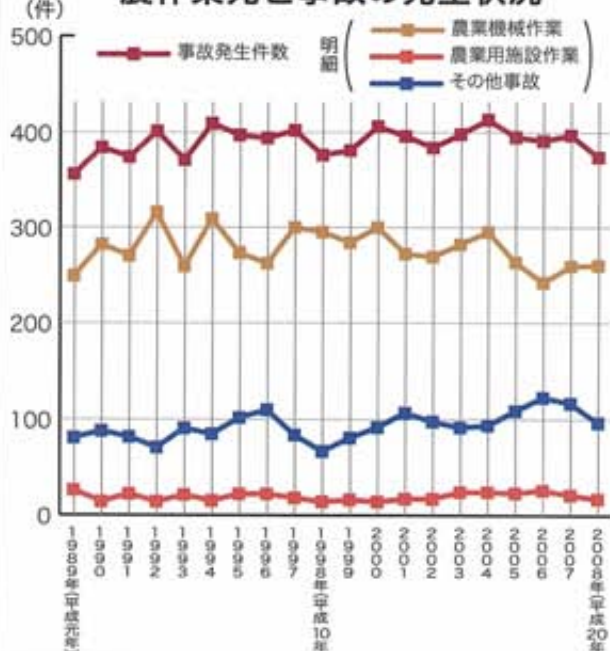
今までに発生した死傷事故のうち、生研センターのホームページ「農作業安全情報センター」に掲載されている事故情報から引用・整理した事例を紹介します。

農作業事故は焦りや油断があれば熟練者でも起こり得ます。農業機械は安全鑑定適合機から選定し、運転操作も基本に忠実に気の緩みがないように、また、高齢者の方は加齢によりとっさの判断力などの心身機能、体力が低下していることを認識して、より一層余裕を持った農作業を心掛けて下さい。また、万が一に備えて労災保険などの加入をお奨めします。(生研センターホームページhttp://brainanaro.affrc.go.jp/iam/)

### 農業機械事故の内訳



### 農作業死亡事故の発生状況





## 乗用型トラクター（転落・転倒）



### 状況・原因

圃場作業終了後のあぜ道を走行時、左折したときに用水路に転落し、顔面骨を骨折。安全フレームは折り曲がった状態で、シートベルトを未着用。路肩が見えにくい上に、左折時にブレーキを使用したとき、片ブレーキ状態であったため機体が急旋回し、脱輪したと考えられます。

事故発生日月：2010年6月 70代男性（重傷）

### 事故防止のポイント

安全フレームを機能させ、シートベルトを着用すること。路上走行時はブレーキを連結すること。路肩を見やすく整備すること。

## 乗用型トラクター（転落・転倒）

### 状況・原因

安全フレームのない旧型のトラクターで自宅から圃場作業に向かう途中、下り坂道路の右側側面に乗り上げ、左側に横転、あおむけになり死亡。脇見運転あるいは道路走行中に片ブレーキを踏むなど操作を誤ってバランスを崩し、急坂の右側側面に乗り上げ、横転したものと考えられます。

事故発生日月：2010年8月 80代男性（死亡）



### 事故防止のポイント

作業時以外は左右のブレーキを連結すること。死亡事故に至らないようにするためには、安全キャブ・フレームの装着が必要。

## 歩行型トラクター（回転部への巻き込まれ）

### 状況・原因

作業中、後進時にロータリー爪に巻き込まれ、骨折、裂傷、右足首を切断。後進時に転倒して、衣類がロータリー爪に巻き込まれたなどが考えられます。

事故発生日月：2009年4月 50代男性（重傷）



### 事故防止のポイント

このトラクターには、手を離すとクラッチレバーが戻って動力が切れる「デッドマン式クラッチ」が備えられていなかった。「デッドマン式クラッチ」を備えた機種であれば、巻き込まれの可能性が低く、より安全性が高い。



## スピードブレイカー（転落・転倒）

### 状況・原因

農業敷布中、2.5mの斜面から誤って転落し、車両のハンドルと地面の間に挟まれ死亡。ハンドル操作の誤り、ブレーキとアクセルの踏み間違いがあったのではないかと推定されます。

事故発生日月：2010年6月 50代男性（死亡）



### 事故防止のポイント

路肩が不安定な場合は、石積みなどで補強すること。テラス式の走行路では、安定走行のため高い方の路肩に溝を掘り車輪案内溝とする。

## 刈り払い機（転倒）

### 状況・原因

草刈り中に斜面に転倒し、肩掛けベルトが向かに引っ掛かり、窒息し死亡。足を滑らせるなどして斜面に滑落ちしたと考えられます。

事故発生日月：2010年7月  
60代男性（死亡）

### 事故防止のポイント

斜面で作業する際には、履き物には滑り止めの溝し、等高線方向に作業を行うこと。斜面での作業を安全にするために、一定距離で小段を等高線方向に投げしておくことが推奨されている。



## 乗用管理機（巻き込まれ）

### 状況・原因

興奮がするため履物から両り点検しようとして、右手の軍手がロータリー駆動軸部のヘアピンに巻き込まれ、手首を切断、二の腕まで巻き込まれた。ロータリーの駆動を止めずに行ったことが原因と考えられる。

事故発生日月：2009年8月 50代男性（重傷）



### 事故防止のポイント

乗用機会の点検・調整時には、必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを切り作用部の回転などを完全に停止させること。軍手や手拭いなど引っ掛りやすいものを身に着けたまま、体を可動部に近づけないこと。



## 個性豊かな 動物を完成

～ニードルフエルト作りに  
会員8名が参加～

AINONAI

相内



▲真剣な眼差しで羊などを作る会員のみなさん

フレッシュミズ相内支部（松井美幸支部長）は3月22日、「ニードルフエルト作り」を地区事務所で行い、会員8名が参加しました。

ニードルフエルトは、「ニードル」という特殊な針で羊毛をチクチク刺して動物などの形を作っていくものです。

参加した会員の皆さんは、作業に

集中しながらも、夏期視察研修や、4月から始まる子供たちの新学期などの会話が弾むなか、見事なニードルフエルト（円写真）を完成させました。人それぞれ形が違いますが、個性豊かな作品となりました。

（中川 裕二）

南北

▼井上代表取締役の説明を聞く部員のみなさん



OKETO

置戸

## 家畜市場と 大型肥育牧場を視察

～普段の手入れ  
市場価格に反映～

青年部置戸支部畜産部会は23日、佐呂間町の家畜市場と株トップファームの視察研修を行い、部員7名が参加しました。本研修は、乳牛市場での有利販売と大規模経営の手法を学ぶことを目的に行われたものです。

家畜市場では、当JAからセリに出された乳牛の価格や手入れ、さらに担当職員から有利販売などの説明を受けました。市場研修後は、年間

約8千頭を飼育しているトップファームを視察。

同ファームは、一貫した肥育経営を行い、搾乳から肥育に経営転換した動機と子牛管理などについて、井上代表取締役が説明してくれました。

参加した部員は「血統も大事だけど、見た目も価格を左右する。普段の手入れも大事」と話していました。

（酒井 沙織）



# 活気溢れる ビートプラント

～豊穰を期待し  
230畝を播種～

ONNEYU



▲小気味良い音が響くビートプラント

地区内のビートプラントで3月12日から、てん菜の播種作業が始まりました。  
てん菜の作付け面積が減少傾向にある中、予定冊数は昨年より600冊少ない約1万3700冊（230畝分）で、地区内作付面積の約6割を占めます。

作業にあたっては組合員と

委託作業員など23人で、ペーパーボットに土を入れ、種を落とし覆土をかけて完成となります。  
播種されたボットは、トラックに積まれ、各生産者のハウスに届けられますが、この作業は3月末まで続けられました。

（佐藤 敏文）

## 東西

▼総会資料に目を通す会員のみなさん



KAMITOKORO



## 役員改選など 全議案を承認

～年金友の会総会  
会員64名が出席～

上常呂支店年金友の会は3月24日、上常呂コミュニティプラザで第23回通常総会を開き、会員64名が出席しました。

22年度の収支決算、さらに2泊3日の温泉旅行、月1回のゲートボールやパークゴルフなどの活動報告と、23年度の事業計画などが審議され、会員の積極的な意見や要望が出され

た中、全議案が承認されました。本年度は役員改選期にあたり、11名の役員のうち7名が退任し、新たに7名の役員が就任しました。

新会長に選任された林鉄太郎さんは「健康が第一。会員皆さんの健康促進につながる会の運営に尽くしたい」と就任の挨拶を行いました。

（加藤 正人）



# 良質長ネギを 消費者に届けよう

～目ならし会に  
生産者ら15名参加～

KITAMI **北見**



▲事務局の出荷基準などの説明を聞く生産者のみなさん

きたみらい野菜振興会長ネギ部会は3月25日、会員のハウスで長ネギの生育状況を見ながら、根や葉の切り方などの「目ならし会」を行い、北見、相内、上常呂の3地区の生産者とJA職員ら15名が参加しました。3地区の栽培面積は50<sup>ha</sup>で、7戸の生産者が栽培。

当日は、同部会の事務局が長ネギを手にし、出荷要領に基づいて出荷規格、品質基準、選別方法、FGFフィルムへの詰め方などの調整方法を説明し、さらに栽培履歴の提出なども呼び掛けました。収穫は4月下旬まで続き、約6トンの出荷が見込まれています。

(塩田こず恵)



▼乳量の増加につなげようと真剣な表情で説明を聞き入る参加者



KUNNEPPU

**訓子府**

# 繁殖改善図り 乳量の増加

～酪農技術講習会に  
59名が参加～

訓子府町乳牛検定組合(越智孝組合長)とオホーツク乳検サポーターズの共催で3月9日、訓子府地区事務所にて「繁殖改善、飼養管理、乳房炎防除対策に関する講習会」が行われ、酪農家とJA職員など59名が参加。講師のオホーツク農業共済組合・山本展司損防指導課長は、繁殖・乳房炎・飼養管理が経営に影響する要因について説明。

本講習会は、繁殖の改善に向け、餌や乳房炎が分娩の間隔に起因することがあり、その基から改善し、分娩間隔を短くすることで乳量の増加を目的にしたものです。参加者は「繁殖の改善は長年の悩み。この講習会を機に1日でも分娩間隔を短くしたい」と話してくれました。

(吉澤 諒)



# 豊穰の秋を願い 種芋の受け渡し

～植付けに向けた  
営農準備スタート～



▲良質種芋が積み込まれる作業を見守る生産者

端野町馬鈴薯振興会(貝沼仁会長)と種子馬鈴薯生産組合(高橋博幸組合長)は3月25日から、選果場施設で本年度の種芋受け渡しを始めました。端野地区における馬鈴薯の作付面積は食用で450ha、加工73ha、種子109haを予定しています。コンテナ内にネット詰めされた種芋をリフトでトラックに積み、規格

と数量を確認しながら受け渡しを行います。倉庫内には種芋のコンテナが約800基準備され、その作業は手際よく行われています。受け渡しは4月8日まで続けられ、ハウスで芋切りなど植付けに向けた本格的な営農準備に生産者の皆さんは、豊穰の秋を期待しています。

(扇谷 光輔)

## 東西

▼佐藤調査役(円写真)の説明を聞く参加者



# 地域営農システムの 将来を考える

～農業法人研修会に  
17名が参加～

留辺蘆町瑞穂地区は3月4日、同地区の改善センターに生産者やJA職員など17名が参加して、農業生産法人に係る研修会を行いました。講師に北海道農業会議の佐藤匡紀調査役を招き、法人化によるメリットとデメリットが説明されました。同地区では、コントラ組合を10戸の生産者で構成し、小麦やデントコ

ーン、牧草などの播種から収穫までの作業を共同で行っていますが、今後、コントラ組合だけでなく、地域全体での法人化を目標にしています。同組合の井上啓一組合長は「法人化するだけでは意味がない。法人化した後のビジョンが大切」と話していました。

(菅原 明希)



## 思い出の写真

### トマト栽培40年

昭和52年3月、奥さんのチイ子さんといっしょにビニールハウスで、トマトの苗の植え替え作業を進めているところを、NHKや北海道新聞が取材に訪れ、撮った写真で、柳瀬さんが35歳の時でした。

柳瀬さんは、3人兄弟の長男として生まれ、中学校を卒業と同時に就農し、両親の片腕となって営農に汗を流しました。20歳でチイ子さんと結婚し、30代前半で経営を引き継ぎました。昭和52年頃は、大規模な水田整備が行われ、田から畑に転換し、玉葱を主体とした作付け体系となりました。当時は、トマト以外にキュウリ、ナス、キャベツなども栽培。しかし、5月下旬の霜により全ての野菜苗が凍結被害を受け、「苗が枯れ、ひどく落ち込んだことを今でも鮮明に思い出す」と話してくれました。これを機に柳瀬さんは、本格的なハウストマト栽培に踏み切り、暖房設備を整えてハウス内の温度管理を徹底すると共に、ハウス棟数も少しずつ増やして、現在のトマトと玉葱の作付け体系を築き上げました。

平成15年に後継者の昌弘さんに経営移譲した現在は、農作業を手伝うかわら、奥さんといっしょに出掛ける旅行を楽しみにしています。そんな愛妻家の柳瀬さんも、奥さんが病気した時は不安な毎日でしたが、家族の協力と2人の強い絆で病気を克服し、今は二人揃っての旅行に喜びをかみしめています。

(加藤 正人)



留辺蘂地区・旭二区

高井 直子さん(63歳)



#### 【写真説明】

左～中村美津子さんの歌「目蓋の母」を披露する高井さん  
上～進行役を務める高井さん  
なお、2枚とも昨年の10月に開かれた発表会の写真です。



きたみらいの  
**ホープ**さん

### やりがいの ある仕事

端野地区・川向

松下 誠さん(24歳)

誠さんは、秋まき小麦・大麦・てん菜・玉葱などを栽培する松下朗弘さん、明美さん夫妻の長男で就農して1年目です。

#### 趣味は？

野球観戦です。テレビで観ることが多いですが、球場に行っても観ることもあります。

#### 好きな食べ物と嫌いな食べ物は？

焼き肉が大好きです。就農してから焼き肉を食べる機会が大幅に増えました。嫌いな物は特にありません。

#### 理想の女性とは？

優しく、おっとりした人。

#### 結婚はいつ頃までに？

30歳位までには。

#### 休日はどんな事をしていますか？

パソコンでインターネットをしています。どちらかと言えばインドア派です。

#### 農業に対する抱負を

自営だし、とてもやりがいのある仕事だと思います。就農して1年目であり、まだまだ勉強することばかりですが、これから自分なりの何かを見つけられるよう頑張っていきたいです。

(扇谷 光輔)

5月号の「ホープさん」は、JAきたみらい青年部温根湯支部の?さんを予定しています。広報編集委員が、突然、取材にお伺いすると思いますが、何卒、ご協力願います。



私の  
パートナー



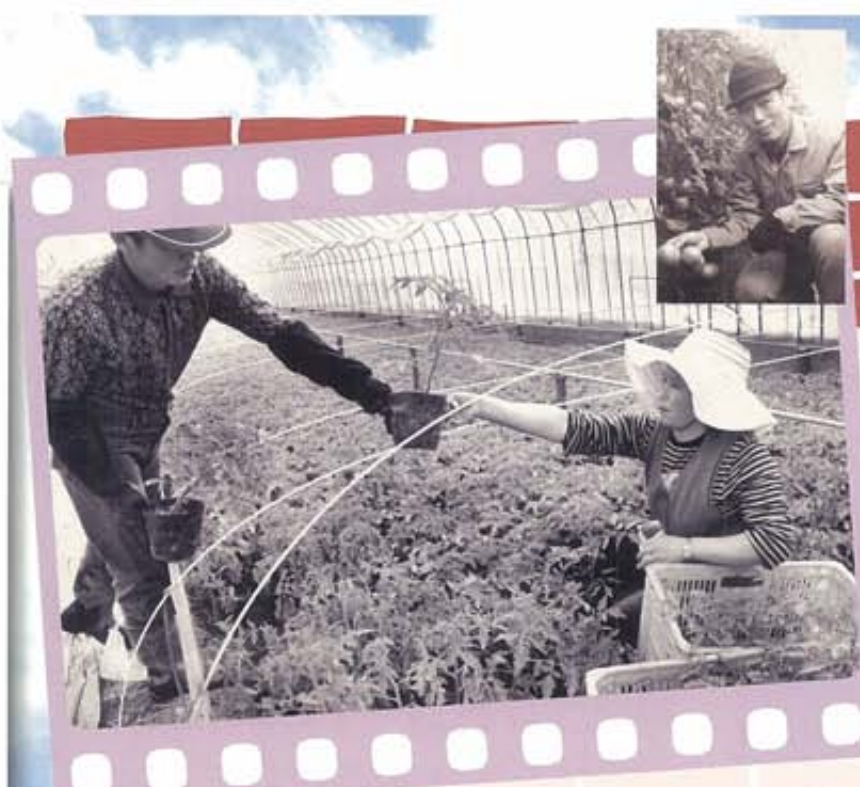
今月号の“私のパートナー”は、9月に第一子の誕生を心待ちにしている浜田和晃さん、美紗子さん夫妻を紹介します。

明るく  
にぎやかな家庭

訓子府地区・緑丘  
浜田 和晃さん(24歳)  
美紗子さん(23歳)

- Q 結婚されたのはいつですか？**  
 昨年の9月に入籍し、挙式は今年の2月20日に挙げました。
- Q 知り合ったキッカケは？**  
 訓子府で開かれた共進会の焼き肉で、隣の席になったことです。
- Q 初めて合った時の印象は？**  
 和 晃さん「明るい子だなあ〜(^\_^)」  
 美紗子さん「黒ぶちメガネがかっこいいな」
- Q 結婚を決意した大きなポイントは？**  
 和 晃さん「家庭がにぎやかになるとおもったから」  
 美紗子さん「犬と猫と牛がいたから」
- Q 美紗子さんの出身地は？**  
 訓子府町内の牧場で酪農実習生を1年間していました。出身地は新潟県です。
- Q 子どもは何人？**  
 現在、妊娠4ヶ月で1人目を出産予定ですが、4〜5人位は欲しいです。
- Q どんな家庭を築きたいですか？**  
 明るくにぎやかな家庭を築いていきたいです。
- Q 今後の目標、あるいは夢を？**  
 和 晃さん「もっと牛を増やして、乳量を上げたいです」  
 美紗子さん「時には落ち着きがあり、時には活発な母親になりたいです」

(吉澤 諒)



【写真説明】

トマトのポット苗を渡しているのが柳瀬さんで、そのポットを受け取っているのが奥さんのチ子さんです。なお、右上の写真は、収穫前のトマトを手をしている柳瀬さん。

上常呂地区・上ところ  
柳瀬 芳夫さん(68歳)



My Taste  
My Taste

歌謡

20年程前に「るべレベ歌謡同好会」に入会した高井さん。キッカケはカラオケスナックの友人からの誘いからでした。当時は、「ストレス発散に最適」と考え、遊び半分で楽しく歌っていただけでしたが、歌謡の魅力に惹かれてしまいました。現在も同会に所属し、週1回は町内のカラオケ教室に通って練習。教室以外でもカラオケスナックで夕方まで歌うこともあり、毎年開かれる「るべレベ歌謡同好会会員発表会」に備え、日々励んでいます。

同発表会は、天童よしみさんをゲストで招いたこともある本格的な発表会です。農業をしている時は、練習する暇もなく、発表会で歌うことは余りなかったのですが、農業を引退してからは、ご主人を忘れてしまうほど真剣に取り組んでいます(笑)。

昔、北見バスでバスガイド4年間の経験から、マイクパフォーマンスは抜群。また、ガイドという仕事柄、発声練習も積み重ねたことから、歌謡でもその特技を生かしています。高井さんは「好きな歌謡を歌えるのも主人のおかげです。声が出るまで続けたい」と笑顔で話してくれました。

(菅原 明希)





# 大きくなったら



北見地区・北光  
小野 睦実ちゃん  
(9歳)

## バスケットコーチが声優に

わたしは大きくなったら、バスケットボールのコーチになりたいです。

1番上のお兄ちゃんがバスケットボールをやっている、「いっしょにやろう」と声をかけられたのがきっかけです。学校の少年団にも入っていて、週3回の練習も楽しく、シュートが入るとうれしいです。

他にもアニメのワンピースが好きで、声優もやってみたいですよ。

玉葱、米、ホウレン草などを作付けする小野俊浩さん、里美さん夫妻の長女でお兄ちゃんが2人います。  
(塩田こず恵)

# ほのぼのの広場



## わが家の愛アイドル



温根湯地区・昭栄  
大原 雅冬くん (3歳)

## 優しいお兄ちゃん

家ではミニカーやプラレールの新幹線で遊ぶのが大好きな雅冬くんは、テレビではアンパンマンのしまじろうがお気に入りです。食事時になると、お皿をテーブルに運んだり、サラダに使う野菜をちぎったりもしてくれます。

夏になると畑での草むしり、タマネギの皮をなくなるまでおいたりして？畑の仕事も手伝ってくれます。雅冬くんは、妹の菜奈ちゃんの面倒を見たり、家族で買い物に行く時は、妹を乗せたカートを押してくれます。

この春から保育園に通う雅冬くん。早く保育園に通って「おともだちたくさんつくりたい!」と話してくれました。

雅冬くんは、温根湯地区・昭栄の大原直記さん、美雪さんの長男です。

(佐藤 敏文)

昭和2年に松田家の次男として生まれ、15歳で就農。当時は戦時中で、衣食を満足に確保するのは困難でした。農業の傍ら、冬は氷点下30℃が続く中、早朝から夜遅くまで山仕事に励み、生計を助けていました。昭和46年から平成11年まで、7期28年に亘って置戸町議会議員を務め、町政に尽力されました。

現在は健康のため、午前中に家や畑周りの草取り、午後からは、仲間と趣味のパークゴルフを楽しんでいます。

置戸町出身の静子さんは、昭和28年、23歳で夏男さんと結婚。当時、松田さんでは水稲、麦類、ハツカなどを作付け、その後、牛を導入し、飼養頭数を増やしていきました。

夏男さんが山仕事や公職で家を開ける時には、両親と共に農作業に励みました。「当時の搾乳は手搾り。子供たちが大きくなるまで大変でした」と話す静子さんと経営移譲後、夏男さんといっしょに、沖縄や九州など日本各地へ旅行に出掛けました。今は、大好きな家庭菜園や花壇作りを楽しんでいます。

(酒井 沙織)



おらがまちの

夏男さん

共に歩んだ58年

おしどり夫婦



置戸地区・勝山  
松田 夏男さん(83歳)  
静子さん(81歳)



# まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



## 3月号クイズの当選者

3月号のまちがいさがしの答えは「2, 3, 5, 11, 12」でした。正解者62名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。尚、抽選はJAきたみらいの大坪常務にお願いしました。

( )内は地区名

- ・真野しず子さん(温根湯)・不破 隆一さん(相内)
  - ・今部 幸江さん(留辺蘂)・大林 明美さん(上常呂)
  - ・鈴木 千鶴さん(置戸)・新井美恵子さん(北見)
  - ・柴田ひとみさん(訓子府)・橋場ミツ子さん(北見)
  - ・中西 和恵さん(訓子府)・井上 智美さん(端野)
- 以上の方々には、JAきたみらいの「なまらドレッシング」(玉葱味・人参味・白花豆味)の3種類をプレゼントします。



## 応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、こだわり豆腐屋さん「豆ふく」のオリジナル詰め合せをプレゼントします。

**津** 波が家や車、白く輝くビニールハウスや田畑をつぶす映像は長く見ることはできませんでした。私たちと同じ農業者は無事に避難できたのだろうか。今日も心配は尽きない。

(置戸地区・仁木 義信さん)

大震災の発生から1ヶ月を過ぎようとしていますが、田畑の復興はいつになるのでしょうか。被災地の農家の皆さんは、この先の不安でいっぱいなのではないでしょうか。是非、立ち直ることを祈るばかりです。

**陽** さしが春らしく少しずつ感じられるようになりました。健康では働けることに心掛けて、今年も農作業にがんばります。

(相内地区・高橋 正保さん)

雪解けも順調に進み、日ごとに増すポカポカ陽気を喜んでいます。今年1年も健康でがんばりましょう!

**お** ひさまサラダクッキングを楽しみにしています。余り手をかけずに簡単に出来るメニューも紹介して下さい。

(訓子府地区・匿名希望)

ありがとうございます。ご期待に沿うように、簡単メニューの料理を掲載したいと考えます。

**東** 日本大震災のことを毎日、テレビで見ながら被災地の方々の苦悩を感じております。私たちに出来ることは、食の安全・安心を守っていくことだと思ひます。

(北見地区・井上 峰子さん)

本当ですね。放射能漏れなどによる野菜出荷停止、さらに拍車をかけている風評など、現地の農家の皆さんは苦悩の日々だと思ひます。



# TPPPの脅威を学ぼう

## 農業が基幹産業の訓子府町でセミナー

訓子府町と同教育委員会は3月16日、町公民館で環太平洋経済連携協定（TPP）問題をテーマに「食・農業・地域を考えるセミナー」を行いました。町内の農業者と一般町民など約450人が参加し、第1次産業の町としての、関心の高さを示していました。

主催者の菊池一春町長は「本町の農業生産高は120億円。TPPに参加すれば33億円の影響が出る。農業者だけでなく、町民一人一人の問題」と訴えました。

同セミナーの後援となった当JAの西川孝範組合長は「第1次産業中心の地域をローカルとすれば、グローバルはローカルを土台に成り立つ。



▲TPP参加によって、大きな社会的痛みを伴う内容などを話す東京大学大学院・鈴木宣弘教授

これを無視してグローバルに乗れば、国の形が根底から崩れる」と挨拶で強調しました。

東京大学大学院の鈴木宣弘教授は「TPPと私たちの食・くらし・地域の未来、真の国益とはなにか」と題して講演。「平成の開国」というのは奇妙にも映るが、残された重要分野を開放することは、相当に覚悟の必要な『開国』で、大きな社会的痛みを伴う」と批判。さらに「関税撤廃しても所得補償すれば大丈夫と言う議論も、毎年4兆円規模の新たな財源が必要になる」と指摘し、「財源確保が6月までまとめられるのか」と懸念を示しました。最後に鈴木教授は「厳しい状況に



▲上は、主催者挨拶を行う菊池一春訓子府町長。下は、後援を代表して挨拶するJAきたみらいの西川孝範組合長



実践活動報告を行った3団体

「夢ミール」の牧嶋重雄代表（左）、「ビストロくんねぶ」の石川修代表（右）

ある日本のマイナスを打ち破り、プラスにして行くことを訓子府町から全国に発信することが重要」と呼び掛けました。講演に先立ち、「農業の元気が地域の元気」と題する実践活動報告があり、「スノーマーチ」普及委員会、直売と加工に取り組み「夢ミール」、1日限りのレストラン「ピストロくんねぶ」の代表者3人が「TPPに参加すると、地域の取り組みが崩壊する」「食という手段で、わが町を外に発信していく」などと、思いや方向性を報告しました。



▲鈴木教授の講演を熱心に聞く参加者



▲スノーマーチの普及活動をプロジェクターで報告する洞政義代表



# 乳牛の暑熱対策など研修

## 酪農セミナーに1000人参加

JAきたみらいは3月17日、酪農振興協議会と共催し「酪農セミナー」を訓子府地区事務所で行いました。

酪農家、農業改良普及員、JA職員など約1000人が参加し、経営安定対策や暑熱対策などを学びました。

講演を前に、当JAの坂下一夫専務は「配合飼料の高止まりが見込まれるなど厳しい環境にある。経費節減や良質自給飼料の確保に努力し、経営安定に努めてほしい」と呼び掛けました。セミナーでは、(社)北海道酪農検定検査協会の熊野康隆企画調整部長が「牛乳を知ろう〜昨年の暑熱の影響は?」と題して講演。

オホーツク管内は昨年の日射病、熱射病による死豚頭数が54頭と、他地域より多かったことを報告しました。また、暑熱によって分



娩間隔の延長や夏季間の生乳生産の減少、8月以降に分娩が集中した上で、「牛舎内の換気徹底が重要」と強調しました。

▲暑熱対策などについて真剣に学ぶ参加者。円写真は講師の熊野康隆部長

# 管内小学校に

## 食育教材贈る

### 28校に1090セット

農林中金金庫の資金拠出で設立された「JAバンクアグリ・サポート基金」は、農業や食に対する理解を育み、農業ファンの拡大や地域貢献を目的に、平成20年度から食農教育事業の一環として小学生向けの補助教材を作り、今年で4年目を迎えました。

教材は「農業とわたしたちのくらし」「みんなの大地・森・海のめぐみ」の2冊。5年生を中心に社会科、理科、家庭科、総合学習の授業などに活用できます。

JAきたみらいも3月11日、北見市・訓子府町・置戸町の教育委員会及び28校の小学校を訪問し、1090セットを贈呈しました。

昨年度の贈呈後、各小学校で行ったアンケートでは、先生から「分かりやすく取り組みやすい教材で、補助教材として役立った。農業への関心や問題点を子どもだけでなく、もっと多くの人々に知らせ、家庭での話し合いなどに喚起していき



▲佐藤宣秀北見市教育長に補助教材を手渡す鹿野内金融共済部長(右)

たい」、児童からは「ぼくたちが食べているものは、農家の人たちが一生懸命作っているから、給食は残したらいけない」など、教育上の効果を表す声が寄せられました。



# 育てた大豆で 手作り豆腐

## 北見市立中央小学校5年生

北見市立中央小学校の5年生は3月22日、23日の両日、学校園で収穫した大豆と、JAきたみらいが贈った10kgの青大豆を原料にして豆腐を作りました。

「食」をテーマにした総合学習の一つで、「生産から流通までの流れ」「北見地方の農業に関心を高める」「安全・安心な食べ物を学ぶ」を目的に、22日は1組27人、23日は2組

30人の児童が取り組みました。

講師は、北見市田園空間情報センターで豆腐やみその調理実習を指導している植村多佳子さん。

最終作業で型を外して白と薄緑の塊が見えると「ワースイイ」「上手にできた」と歓声が上がりました。

約3時間かけて出来た豆腐を試食した児童は一齐に「おいしい」を連発していました。



▲布袋で懸命に豆乳を搾る子どもたち

1組の好井萌さんは「布袋で豆乳を搾る作業は大変だった。みんな力を合わせて作った豆腐はおいしかったので、疲れも吹っ飛びました」と笑顔で話してくれました。

担任の保川直記先生は「この授業を通じて、農家の皆さんが苦労して食料を作っていることに感謝の気持ちを持ってくれました。」



▲完成した手作り豆腐を試食する子どもたち

# 子どもたちから手作り文集

## 道青果物拡宣協の

## ベジフル教室のお礼に

## 応援メッセージと

## イラストがいっぱいに

北海道青果物拡販伝協協議会は2月、札幌市の新琴似南小学校で開いた「Greenベジフル教室」で、講師を務めた当JAの生産者と職員に、子どもたちから感謝の手作り文集が届き、2人は「大事な宝物にしたい」と喜んでいました。

道内JAやホクレンでつくる同協議会は、消費地の子もたちに生産者が直接、野菜の知識や魅力を伝える

る活動を展開しています。

同校は総合学習



▲思いがけない文集のプレゼントに笑顔の南会長(左)と加藤職員



の一つとして、馬鈴薯に関する授業を設けました。

講師を務めたのは、馬鈴薯振興会の南博敏会長と、販売企画部企画開発グループの加藤秀樹調査役。

授業では4年生約40人と父母の皆さんに、馬鈴薯や道産野菜について説明し、「男爵」「メークイン」「イン

カのみざめ」の3種類の食べ比べも行いました。

南会長はつなぎ服、腕抜きに豆絞りのタオルを頭に巻いた普段の農作業着姿で、馬鈴薯を作る大変さや楽しさを語り掛け、子どもたちに強い印象を与えました。

このほど届いた文集は、4年1、

2組の子どもたちの手作り。色鉛筆で2人の似顔絵、馬鈴薯、トラクタ、畑などが描かれ、「北海道の野菜は250種類と聞き、ビックリしました」朝早くから夜遅くまで働いてジャガイモを作っていることに驚きました。頑張ってください」などのコメントが寄せられました。

2人は「子どもたちの顔を想像しながら読み、感動した」と大喜びです。南会長は「ハウスで今、種芋の浴光育芽が行われているので、写真に収めて子どもたちに伝えたい」と意気込みを話してくれました。

# 畑作物の生育と作業を学ぶ

## 若い農村女性グループ

### 「畑楽クラブ」が講座

若い農村女性が集って作られた「畑楽クラブ」の第4回講座が3月22日、JAきたみらいセンター事務所で行われました。

同クラブは昨年7月に、JAと網走農業改良普及センターが連携して、地域農業の発展と女性農業者の地位向上につなげようと開設されたものです。開設は、JAのフレッシュユミズ会員の多くが抱える「子どもを保育園に預けて農作業を手伝うが、知識不足のため家族についていけない」という悩みがきっかけ。「農業を初歩から楽しく学び、家族の作業についていけるようになりたい」とい

う要望に応え、主要作物の玉葱や馬鈴薯の基礎知識を学んできました。

4回目は「てん菜と麦を学ぼう！」と「生育・作業について」をメインとした講座に会員23人が参加しました。

講師は、同センターとJAの職員らが務めました。会員は、配布された麦穂の殻を剥き、粒の大きさを比較したり、「きたほなみ」全面移行に伴う追肥による生育効果、さらにはん菜の生育ステーションのクイズを交えながら、両作物の生育と栽培カレンダーを作成しました。

同センターの荒木英晴専門普及員は「開花したかどうか確認し、男性

陣に防除を促すことによって、赤力

ピ病は未然に防ぐ」と女性陣の出番を強調。フリー

トークでは会員から「手間が少ないのでてん菜の直播に魅力を感じていたが、移植のメリットも分かったので、がんばろうという気持ちになった」「麦は男性の仕事かと思っていたが、開花時期を気

にして畑を見て歩きたい」など、意欲的な意見が出されました。

また、昼食には「ホクシン」と「きたほなみ」の乾麺うどんの食べ比べも行いました。

同講座の開催は3カ年を計画し、次回は6月下旬に「雑草の種類と特徴」除草剤」が予定されています。



▲荒木専門普及員の指導の下、生育・栽培カレンダーを作成する会員



# ACTION

## 東日本大震災の被災地に

# 生活支援物資を発送

## JRコンテナで3月26日出発

3月11日に国内最大のM9の大地震が発生し、太平洋沿いの東北と関東地方が、阪神淡路大震災を上回る大きな被害を受けました。

JAGグループ北海道は3月14日に、「東日本大震災支援対策本部」を設置し、地震による道内の農業やJA関連の被害状況の把握や、道外の被災地への食料・生活物資の支援、さらに義援金とりまとめなどを積極的

に行う方針を決めました。

当JAも支援対策本部の方針に沿って、支援物資の提供依頼と金融店舗各支店の窓口に義援金の募金箱を設置し、組合員など利用者に広く呼び掛けています。

JAの8地区事務所の組合員や役員からタオル9000枚、紙おむつ9500枚、毛布類500枚の支援物資が届けられました。



▶各地区事務所から届けられた支援物資を区分する職員

幼児2人のお母さんは「私の子どもも紙おむつを使用します。何もかもが津波で流されたお母さんたちの気持ち pensando、黙ってはいられなかった」と話し、70枚入りの紙おむつを2袋購入して届けてくれました。多くの方々から届けられた善意の支援物資は3月26日、当

JAのレトルトカレー「おひさまカレー」1000食分、さらにJA粗品用タオル6000枚と共に、JRコンテナに積み込まれ、3月30日に無事、宮城県対策本部に到着しました。

当JAの西川組合長は「支援物資提供に協力いただいた組合員や職員に感謝したい」、また「被災地のみなさんは不安な日々を送っている。物資を届けることによって、少しでも元気になることを願っている。今後も、出来る限り被災地を支援していきたい」と話してくれました。



▲支援物資がびっしりと積み込まれたJRコンテナ (この写真は日本通運KK北見支店提供)



▲「おひさまカレー」をパッケージ詰める職員



# 越冬長ネギ収穫始まる

葉も青々

柔らかさ甘さも十分

北見市とん田西町の竹中義一さんのビニールハウスで、越冬長ネギ「松本一本」の収穫が始まりました。雪の下でジッと育ち、糖分も十分に蓄えた長ネギは「柔らかく甘さも最高」と消費者から好評です。

竹中さんは、長ネギ栽培歴22年のベテラン。同じ生産者から「長ネギの匠」と呼ばれるほどです。ハウス3棟で約7㍓を作付けしています。昨年5月に種を撒き、7月に定植。冬の間は雪の下で過ごし、1月中旬にハウスをビニールで覆って雪を溶かすと、再び青々と育ちます。今年の収穫は3月21日から始め、掘り出した長ネギは1日かけて乾燥



▲青々と育った長ネギを収穫する竹中さん

# 早くもメロン苗定植

6月中旬の初出荷を目指し

ハウス周辺に雪が残る中、訓子府町で3月21日から「くんねっぶメロン」の定植作業が、昨年より3日早く始まりました。「くんねっぶメロン」は、日照時間が長く寒暖の差が大きい条件から、甘さに定評があり「きだみメロン」と同様にJAきたみらい地区のブランド品の一つとなっています。

定植を始めたのは、同町メロン振

興会・加温部会の生産者14戸。ハウス内の温水を床土の上と地中との間で循環させることで、一般の出回りより早い6月20日頃の出荷を目指しています。

同会会員の福田節幸さんのハウスでは、家族総出で作業に精を出していました。地面に敷かれたマルチに70㍓間隔で「ルピアレッド」の苗を1株ずつ丁寧に植えていました。



▲1株1株ていねいに行われる定植作業

福田さんは「消費者の皆さんに甘くておいしいと喜ばれるよう、気持ちを入れて育てたい」と話してくれ

ました。町内全体で83戸が9㍓作付けし、8㍓入り化粧箱で2万5千ケースを出荷する予定です。

十分」と話してくれました。



# 1日限りのレストラン開店

## 食を通して農業を発信

訓子府町の農業青年と町女性職員で構成する7人のメンバーは3月27日、町公民館で第4回目となる1日限りのレストラン「ヒストロKUN NEPPU」を開き、町内外から家族連れ80人が参加しました。

地元の食材を味わってもらい、農家と消費者が交流し、地域の活性化を図るのが目的です。

農業青年は、地元農家の協力で得た野菜や、自宅で保存されている野菜を持ち寄り、「スノーマーチと野菜

のミルク煮込み」「ロースポークとトラ豆の煮込み添え」など10品の料理を作って振る舞いました。

来店された皆さんは、町内のオンライン吹奏楽団のメンバー3人が奏でる3重奏ライブを聞きながら、癒しの空間もいっしょに楽しみました。

北見市内から参加した小林清美さんは「トラ豆をロースポークの付け合せに使うのは新感覚でおいしかった」と話してくれました。

同店の実行委員長兼総料理長を務



▲毛がにたっぷりの「炊き込みご飯」



▲おいしい料理を味わう親子

拍手が寄せられました。

J Aきたみらいも開店にあたって、「スノーマーチ」とJ Aオリジナル「ドレッシング」を提供しました。

## 第8回通常総代会を開催

前年度の成果と23年度に向けた計画などを総代の皆様に審議いただくため、次の通り総代会を開催します。

本総代会は、すでに選任されている412名の総代で構成されて執り行われます。なお、総代の皆様には、招集案内などが届いていると思いますが、当日の出席宜しくお願い致します。

記

- 日 時 平成23年4月15日(金)午前10時から
- 場 所 ホテル黒部(2階・富士の間)  
北見市北7条西1丁目



▲昨年の第7回通常総代会

## 第2回

## 理事会報告

●平成23年3月25日(金)

3月25日、午前9時30分より第2回定例理事会が開催され、報告事項14件、議決事項11件が協議され、原案通り承認されました。

### 【報告事項】

- ①平成22年度独立監査人の監査報告書について
- ②平成22年度期末定期監査報告について
- ③組合員状況報告について
- ④財務状況報告について
- ⑤人事の発令について
- ⑥平成22年度キャッシュフロー計算書について
- ⑦畑地の産地資金について
- ⑧平成22年産共計玉葱・馬鈴薯の選果状況及び共計価格について
- ⑨ホクレン青果物取り扱い奨励費について
- ⑩肥料高騰対策に係るスイートコーン契約ユーザー支援について
- ⑪平成22年度先進的小麦生産支援事業について
- ⑫生乳生産状況及び固体取引価格について
- ⑬役員海外研修について
- ⑭東北地方太平洋沖地震被災地への支援対応について

### 【議決事項】

- ①出資減口及び持分譲渡について
- ②固定資産の取得及び処分について
- ③北海道常例検査指摘事項に係る改善状況報告について
- ④平成23年度役員報酬における理事・監事報酬総額の配分について
- ⑤平成23年度給与の改定について
- ⑥J Aバンク利用者保護等管理規程の一部改正について
- ⑦北見市に対する平成22年度銀行繰上債の貸付について
- ⑧畑地かんがい排水事業に対するJ A支援方針について
- ⑨平成22年産もち米の取扱いについて
- ⑩冬期地区別懇談会Q & Aについて
- ⑪第8回通常総代会提出議案について



## 定年退職のお知らせ

4月1日付で職員の定年退職がありましたのでお知らせします。各職員とも在職中は、組合員を始め地域皆様のご厚情をいただき誠にありがとうございました。退職にあたり旧JAの入職年度と合併後の職歴、合わせて正職員としての在職期間(旧JA含む)を簡単にご紹介します。



**小中 秀幸**  
(販売企画部長)

- ◇S44.3 訓子府町農協入職
- ◇H15.2 合併により訓子府支所青果課長
- ◇H17.5 訓子府支所次長
- ◇H18.3 農産部長
- ◇H18.6 青果部長
- ◇H21.6 販売企画部長
- 在職期間 42年1ヶ月



**大山 登**  
(組合員ふれあい室  
ふれあい相談畜産グループ)

- ◇S43.3 訓子府町農協入職
- ◇H15.2 合併により訓子府支所畜産課
- ◇H16.5 訓子府支所畜産課長
- ◇H19.6 置戸支所畜産課
- ◇H21.6 組合員ふれあい室・ふれあい相談畜産グループ
- 在職期間 43年
- ※定年退職者再雇用制度により引き続き在職



**下地 富夫**  
(組合員ふれあい室  
ふれあい相談2グループ)

- ◇S50.7 相内農協入職
- ◇H15.2 合併により相内支所生産資材課長
- ◇H18.6 相内支所営農課
- ◇H21.6 組合員ふれあい室・ふれあい相談2グループ
- 在職期間 35年9ヶ月



**山田 安昭**  
(営農振興部  
企画振興グループ)

- ◇S44.3 端野町農協入職
- ◇H15.2 合併により端野支所経営相談課
- ◇H18.6 営農振興部生産振興課
- ◇H21.6 営農振興部企画振興グループ
- 在職期間 42年
- ※定年退職者再雇用制度により引き続き在職



**奥原 隆**  
(購買部  
資材南エリア)

- ◇S45.3 訓子府町農協入職
- ◇H15.2 合併により訓子府支所生産資材課
- ◇H21.6 購買部資材南エリア
- 在職期間 41年1ヶ月



**細野 繁喜**  
(購買部  
燃自東エリア)

- ◇H1.4 北見市農協入職
- ◇H15.2 合併により北見支所生産資材課
- ◇H21.6 購買部燃自東エリア
- 在職期間 22年
- ※定年退職者再雇用制度により引き続き在職

## 平成23年度 新規採用職員のご紹介

本年度、新採用された4名の職員をご紹介します。配属先については、1ヶ月間の研修終了後、正式に決められますが、組合員の皆さん宜しくお願い致します。

- ①生年月日 ②出身校 ③趣味・特技 ④抱負



総務企画部付  
**横田 佳織**

- ①昭和60年7月6日
- ②北海道大学大学院農学院
- ③園芸・アウトドア

④私は、北海道の農業を支えたいという思いを強く持っております。これから組合員の皆様、職員の皆様からたくさんのお話を吸収するとともに、組合員皆様の要望に応えられるように努力します。1日も早く仕事をこなせるように一生懸命頑張りますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。



総務企画部付  
**高田 陽介**

- ①昭和63年3月9日
- ②金沢工業大学工学部・JAカレッジ
- ③読書

④私は、何事にも全力で取り組むことを目標としています。最初は分からない事も多いと思いますが、1日も早く仕事を覚え、組合員の皆様に満足と笑顔を届けられるよう努力していきます。一生懸命頑張りますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。



総務企画部付  
**小野寺 夢**

- ①昭和63年8月25日
- ②北星学園大学文学部
- ③音楽鑑賞・バトミントン

④私は大学で農業に直接関わりのない事を勉強してきました。毎日、学ぶ事が多いと思いますが、初めてのことからこそ興味を持ち、積極的にチャレンジしていけると思っています。組合員の皆様、職員の皆様、地域の皆様の役に立てるよう、元気に笑顔で頑張りますので宜しくお願い致します。



総務企画部付  
**嶺 将太**

- ①昭和63年11月30日
- ②酪農学園大学酪農学部
- ③剣道

④私は、剣道を16年続けてきました。その剣道を通して培ったものを十分に発揮し、1日も早く立派な農協職員になれるよう頑張ります。組合員の皆様、職員の皆様から信頼される人になれるよう頑張りますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。





【材料：4人分】

- 米……………米用カップ2カップ(360ml)
- タマネギ……………1/2個(100g)
- グリーンピース(冷凍)……………50g
- レーズン……………40g
- 鶏ささ身……………3本(150g)
- バター……………20g
- カレー粉……………大さじ1
- スープのもと……………小さじ1
- A 塩……………小さじ1/2
- 湯……………300ml

## カレーピラフ

【1人分約402kcal】

【作り方】

- ①米は洗って、ざるに取り、水気を切る。
- ②タマネギはみじん切り、グリーンピースは湯に入れて、戻して水気を切る。レーズンはぬるま湯で戻して、水気を取る。
- ③ささ身は筋を取り、1cm角に切る。
- ④フライパンにバターを溶かし、タマネギ、ささ身を炒める。  
①を加えバターが全体になじむまで炒めたら、カレー粉を入れて炒める。
- ⑤炊飯器に、④、グリーンピース、レーズン、Aを入れ、普通に炊く。
- ⑥全体を混ぜる。器に盛る。

メモ

身近にある材料で作る、誰にでも好まれるカレー味。ささ身はシーチキンに変えてもOK。ピラフなのでご飯はかために仕上げています。好みで水加減を調節しましょう。

# おひさまサラダ COOKING

♥おいしいもの大好き!♥



【材料：4人分】

- キャベツ……………200g
- タマネギ……………1/2個(100g)
- ニンジン……………50g
- トマト……………2個(300g)
- ウイナーソーセージ……………4本(60g)
- ニンニク……………1片(10g)
- バター……………20g
- 水……………5カップ
- A スープのもと……………小さじ2
- ローリエ……………1枚
- 塩・こしょう……………各少々
- パセリのみじん切り……………少々
- 粉チーズ……………少々

## キャベツのトマトスープ

【1人分約137kcal】

【作り方】

- ①キャベツは、2cm角に切る。タマネギは1cm角に切る。ニンジンは2~3mm厚さのいちょう切りにする。トマトはひと口大に切る。
- ②ソーセージは1cmの輪切りにする。ニンニクはみじん切りにする。
- ③鍋に弱火でバターを溶かし、ニンニクを炒める。香りが出たら、タマネギ、ニンジン、トマトを炒める。キャベツを加え、ひと混ぜする。
- ④A、ソーセージを加え、強火で煮立てる。アクを取り、弱火で3~4分煮る。塩、こしょうで味を調える。器に盛ってから、好みで、パセリとチーズを散らす。

メモ

生のトマトを使い、フレッシュな味に仕上げています。常備してあるトマトの水煮缶やトマトジュースを使って代用できます。ニンニクやバターで味に深みがでます。

### 編集後記

・3月11日に起きた東日本大震災。M9の地震と津波は、アツという間に漁船、建物、農地などを崩壊させました。農業に関わる一人として、春の田植えに向けて育てていた苗のビニールハウスが、津波によって押し潰されて行く様子がテレビに映し出され時は、目を覆いたくなるほどのショックを受け、言葉を発することが出来ませんでした。地震発生から、日を增すごとに被害状況が明らかになり、数多くの犠牲者と行方不明者、さらに17万人以上が避難所生活を続けていますが、亡くなられた方々のご冥福と被災地の皆様へ心からお見舞い申し上げます。

・私たち一人一人では、出来ることは限られています。この震災でAG JAPANの広告がテレビで毎日流れています。その一つ、「心づかい」や「思いやり」は「だれにでもできる」という言葉のように、支援物資や義援金、そして「がんばって!」という応援メッセージを送り続けることを、今、いっしょに行動しませんか。

(編 仁志)

### JAきたみらい概要

(平成28年3月20日現在)

- ・組合員数(正) 1,839人
- ・組合員数(准) 6,008人
- ・組合員戸数(正) 1,262戸
- ・貯金 97,844百万円
- ・貸出金 17,102百万円
- ・出資金 5,082百万円



## 5月で節目の100号発刊！

～組合員みなさん、そして家族みなさんのメッセージを～

平成15年2月に8つのJAが1つになって、新しく「JAきたみらい」の誕生と同時に広報誌・合併記念号「こんにちはJAきたみらいです」を発刊。

紙面を通じて組合員皆さんに広報誌名称を広く募集し、翌月から「おひさまサラダ」という愛称で発行し現在に至っていますが、今月、お届けする「おひさまサラダ」は99号、そして、来月5月10日発行予定の「おひさまサラダ」が節目の100号を迎えます。

発行当初から広報理念を「広報誌から広めよう協心・共感の輪」と定め、その理念に沿って組合員交流の一役を担ってきました。

つきましては、節目の100号を迎えたJA広報誌「おひさまサラダ」に対しての「思い出」や「好きなコーナー」、さらに「こんな広報誌であって欲しい」等々、皆さんからのメッセージをお待ちしておりますので、下記の欄に記入されFAXで送信下さい。

### おひさまサラダへのメッセージ

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....



(字数は200字程度)

地区事務所名	地区事務所
住 所	
氏 名	( 歳)
電 話 (0157)	-

■FAX送信先 JAきたみらい広報編集委員会宛

FAX番号 0157-24-2212

■メッセージ締切日 **4月22日(金)までに**

※お寄せいただいたメッセージは、各地区事務所から2名ほど100号記念特集で紹介したいと思っておりますので、予めご了承ください。